



news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
〔URL〕 <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2016年5月26日

報道関係 各位

旭山動物園 循環型農園 「つながる輪『いのち』」2016年度 活動スタート ～農園初、ホタルの幼虫を放流します～

北海道コカ・コーラボトリング株式会社(本社:札幌市清田区 代表取締役社長:佐々木 康行)は2016年5月28日(土)、旭山動物園内で行っている環境教育プログラム「循環型農園」「つながる輪『いのち』」(以下、同プログラム)の2016年の活動をスタートいたします。同プログラムは動物の排泄物を利用した堆肥から農作物を作り、その作物が動物や人間が食べる食料になることで循環型環境を学ぶプログラムで、今年度で開始7年目を迎えます。

3年前より整備を進めてきた「ホタルが生息できる環境づくり」に、昨年初めてホタルの幼虫を放流し、今年も引き続きホタルの幼虫の放流を行います。



学生達による農園開きの様子



つながる輪『いのち』応援自動販売機

同プログラムは、2008年に当社と旭川市との間で締結した「魅力的なまちづくりに関する基本協定」に基づき、2010年から旭山動物園内 休憩スペース「やすらぎの森」横にて、旭山動物園と当社を含む協力関係者が協働して農園を開墾し、高校生をはじめとする市民が中心となって農作物の栽培を行うものです。

また、旭川市内4ヶ所に設置している、「つながる輪『いのち』」応援自動販売機の売上金の一部はこの活動の運営費となります。これは、当社製品をご愛飲いただく皆様から旭川市の魅力的なまちづくりを応援していただく気持ちをお預かりして運営費とするものです。

「つながる輪『いのち』」農園開き

- 日 時 : 2016年5月28日(土) 午前10時から
- 場 所 : 旭川市旭山動物園やすらぎの森横「循環型農園」前(旭川市東旭川町倉沼)
- 出席者 : 旭川市旭山動物園長 坂東 元 様
北海道コカ・コーラボトリング株式会社 営業統括本部
第二本部 フルサービス営業四部長(地域連携担当) 松村 忠司
旭川実業高校、旭川農業高校、拓殖大学北海道短期大学など 約80名
- 内 容 : ①野菜の種まきと田植え
②ホタルの幼虫を放流

※天候不良により順延する可能性があります

協力関係者の役割等

協力団体	役割等
旭川実業高校	農園管理、堆肥管理
旭川農業高校	農園管理、堆肥管理
拓殖大学北海道短期大学	農園アドバイザー、作物育成指導
株式会社北海道録画センター	農園づくり支援、活動内容録画
花本建設株式会社	土、有機肥料提供と搬入
龍後設備株式会社	水廻り設備工事等支援
株式会社新見産業株式会社	焼丸太提供（柵）
有限会社旭川銘木	畑の囲い木枠用板提供
あさひかわ若者サポートステーション	農園管理支援
北海道労働者協同組合	農園管理支援
山田 有弘	ホタル提供
旭川市旭山動物園	トイレ管理、農園場所提供、水道光熱費負担
北海道コカ・コーラボトリング(株)	環境プログラム総合調整

自動販売機設置先協力者

設置協力者	設置協力者の住所
ロジックヴィクトリイ	旭川市春光台1条4丁目
木村下宿	旭川市末広4条2丁目
株式会社トラスポジャパン	旭川市末広6条1丁目
東邦電設株式会社	旭川市東光3条2丁目
旭川市旭山動物園内やすらぎの森前	旭川市東旭川町倉沼

当社は、「北の大地とともに」をスローガンに、責任ある企業市民として、北海道の魅力をさらに高める活動を、継続的に実行してまいります。これからも、次世代を担う子どもたちに、将来の地球の姿を考える場を提供することや、安全で安心な地域づくりを応援する取り組みを、地元企業として、事業活動を通して継続的に推進してまいります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞
北海道コカ・コーラボトリング株式会社
広報・CSR推進部 担当：藤井
011-888-2091

(ご参考)

1. 環境教育プログラム“循環型農園”「つながる輪『いのち』」について

(1) 環境メッセージの発信

農園づくりの堆肥は、主に園内動物の排泄物を利用しており、収穫された作物を人間や動物が食することで、命の大切さと生態系の循環を感じとることが出来る仕組みとなっております。

(2) 次世代を担う若者の育成応援

作物の栽培は、主に高校生を中心に行っており、事業を通して若者の自主性や環境保全に対する意識の涵養を図っております。

(3) より魅力的な旭川市の実現

官・民・学が想いを揃えて上記プログラムに取り組むことで、旭川市及び旭山動物園の更なる活性化、賑わいづくりを目指しております。

2. ホタルが生息できる環境づくりについて

2013 年度よりホタルが生息できる環境づくりを目指し整備が進められています。これまでに、ため池を循環する水路を作ったほか、ホタルの幼虫のえさとなるタニシを放流、周辺にヨシを植えるなどの活動が行われており、昨年に引き続き、本年度もホタルの幼虫を放流する予定です。

